

抄録

第1回日本シニア小児科医連盟

講演1

山城雄一郎（順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座教授/名誉教授）

今回、衛藤義勝先生が中心になり「日本シニア小児科医連盟」が結成され、第1回の会合が平成26年4月、日本小児科学会総会が開催された名古屋市で高名な10数名の参加者を得て開催されました。

我が国のこのような会が結成、発足した事は非常に喜ばしい事で、既に定年を越えた小児科医やこれから定年を迎える方々も小児科医としてのキャリアを引続き連繋し発揮出来る共通の広場が出来たと考えられます。

日本国民の平均寿命が急速に伸び高齢化社会と言われる今日、元気で意欲、能力を有する定年以降の高齢者の再雇用は、社会の要求でもあり、少子化で若年雇用者が減少しつつある我が国の社会活動維持に重要です。そして小児科医など高度の知識と技能を有するspecialistsは国の重要な財産であり、子育て支援等に多大な貢献が期待されております。

講演2

安次嶺馨（沖縄県立中部病院ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団ディレクター）

我が国では永年、率後医学教育は主として大学病院で行われていましたが、2004年の新臨床研修制度開始以来、市中病院の役割が大きくなりました。しかし、多忙な診療・研究の片手間に卒後教育を行うのでは、十分な成果を上げることはできません。

我が国の医学教育の現状は、残念ながら、国際的な評価が低いと言わざるを得ません。国際スタンダードを目指す医学教育を行うのは、急務と考えます。このような現状は、シニア小児科医の出番です。診療の支援で現役の負担を減じるのも大切ですが、一方、off duty staffとして教育に従事するのも、シニアの役割だと思います。大学でも、市中病院でも、シニア小児科医が教育者という立場で連携し、自らも学び直し、若者たちを育てることを新たな喜びにしませんか。